

刀劍亂舞  
大俱利伽羅  
燭台切光忠

十八禁  
成人向

獄樂園

前編



あの方の

一番になりたかった







愛嬌もあって  
皆から好かれていた

あの方に  
僕は  
あこがれていた

気高く

自由で

戦場だけじゃなくて  
片時も離れず

ずっと  
お側にいたかった

あの方が――



人の世を去る



その時まで



長船派の祖  
光忠が一振

参る！





本丸での毎日は  
結構忙しくて

ありがと

光忠さん  
お茶の用意  
できました

あの青葉の城での  
日々を思い出せるから

じゃあ神棚の  
お茶かえてくるね

はい  
お願いします

嬉しくもある





榊もそろそろ  
取り替え時だな



そう  
すごく嬉しい

くりちゃん



ありがとう

お茶おけてくれて

嬉しいはずなんだ

気が利...





だけど――



くり……ちゃ……

え……





皆待ってるから  
戻るね





なんだ  
倦怠期か？



…覗き見  
趣味悪いぞ

たまたま  
通っただけだって



なあ

光忠は昔から  
眼帯なんぞしていたか？



仲良くしろよ





冷てーなあ…



知らん

あの方のお側には  
いつも  
龍紋の一振りがあったことを  
思い出す





あの城での  
日々を

普通にしなきゃ  
いけないのに

思い出せる

思い出してしまっ

普通ってなんだろう

主に仕えること

出陣すること…

それなら

こころもしてる



思い出せる事  
思い出せない事

それが  
選べたらいいのに





また書類不備だ



長谷部くんて  
本当奮神者のお世話  
好きだよね〜

主命じゃなくても  
いろいろしてるし

うちの主がもっと  
しっかりしてたら  
俺もこんなことはしない



お前だって

大俱利伽羅に  
なんだかんだ世話を  
焼いてるじゃないか

え





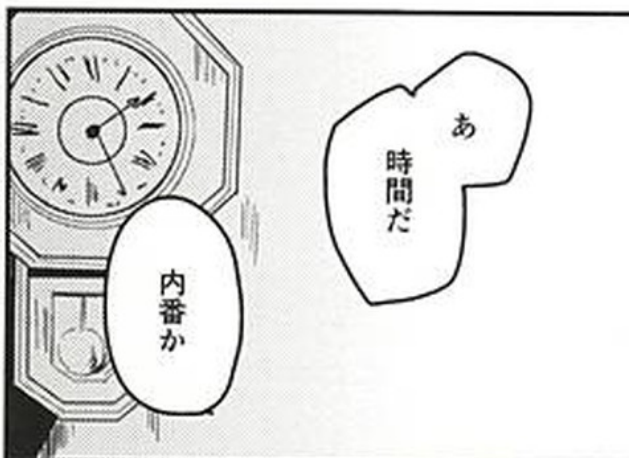




手合わせ  
久しぶりだね



…独占欲が強いのは  
こいつの悪い癖だ



あ  
時間だ

内番か



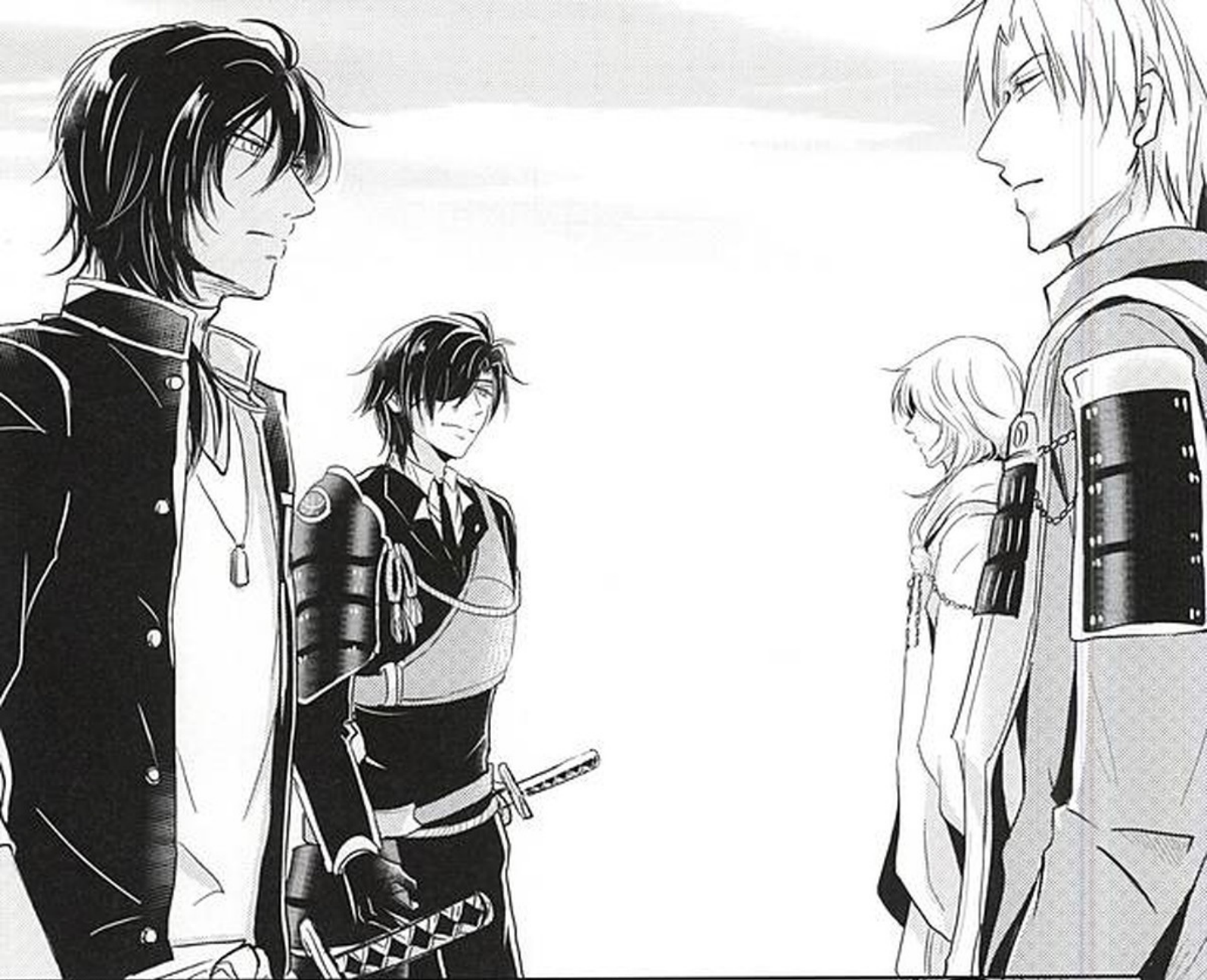
お前は  
鶴丸とか

合  
鶴丸国永

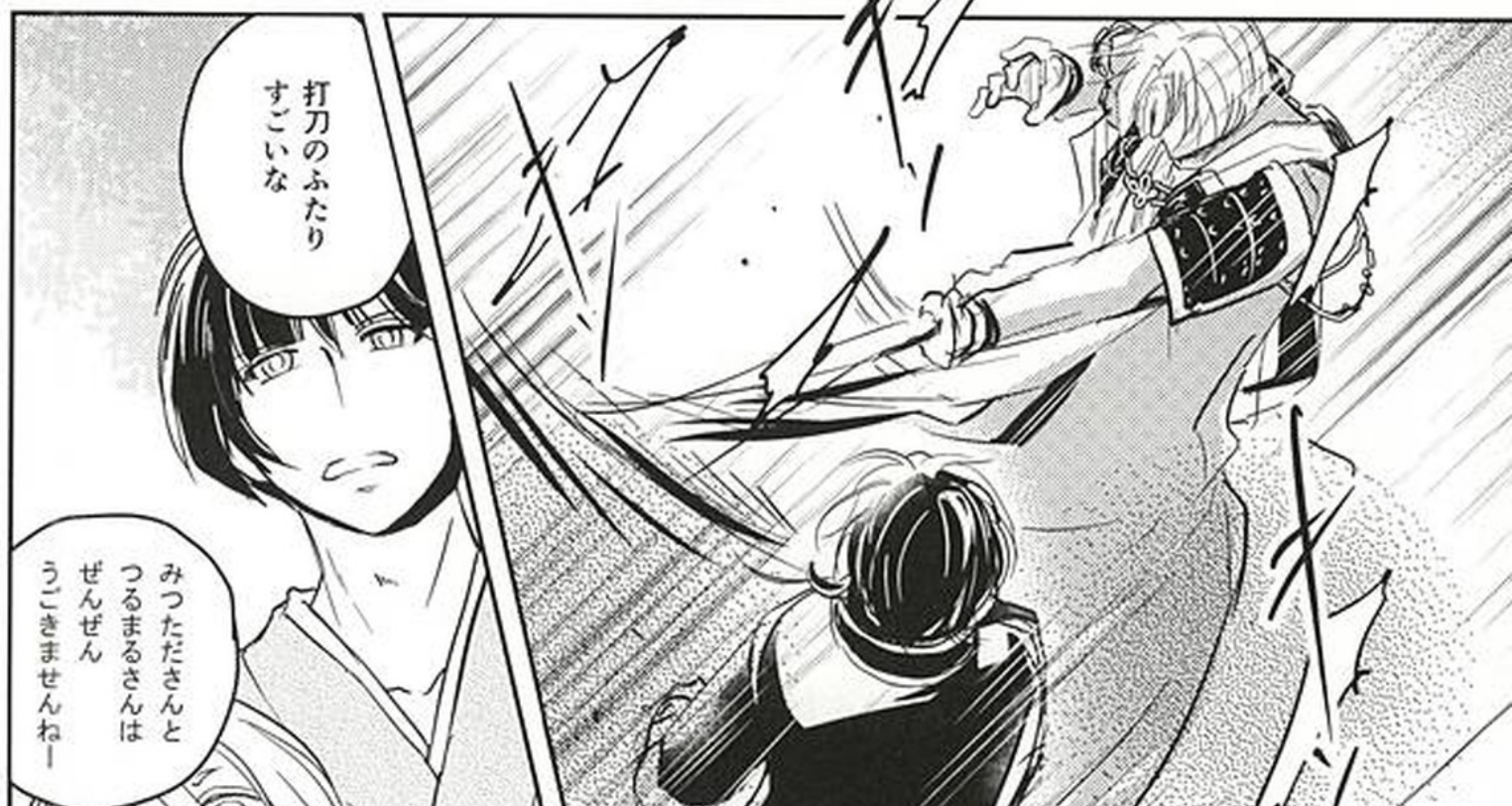
合  
畑台の光志

長谷部くんは  
くりちゃんど？

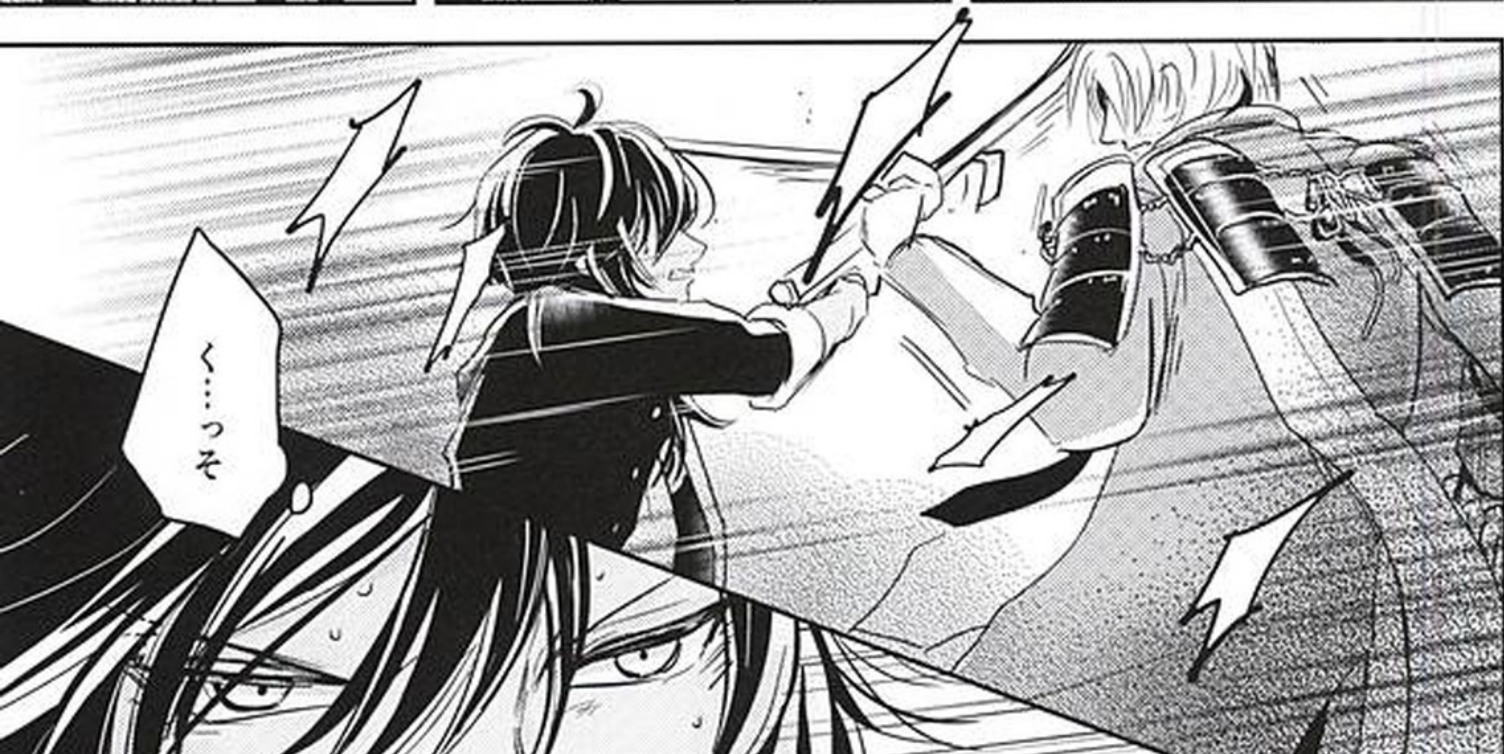




















どこ  
気にしてるんだよ









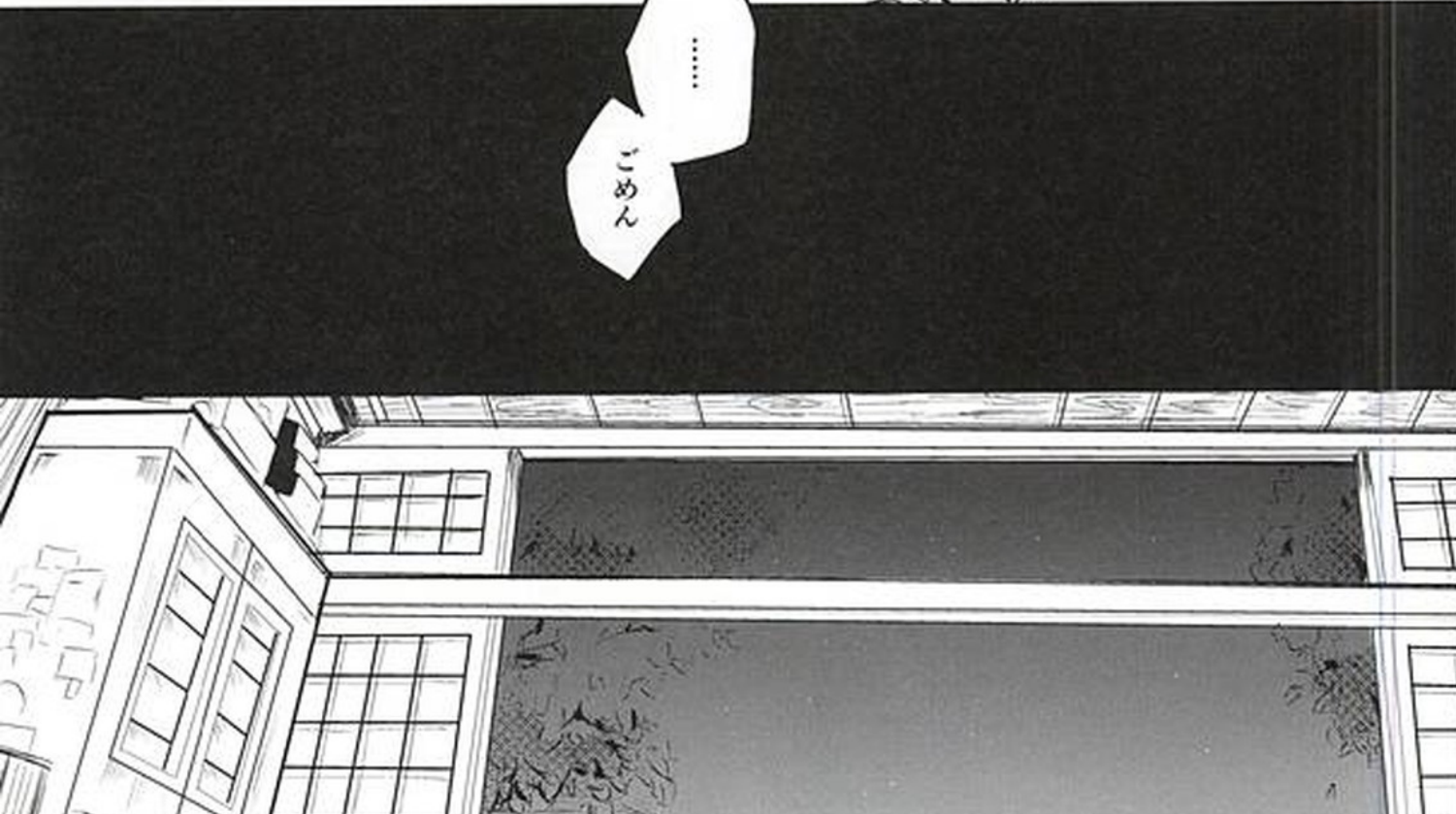
あんまり俺のこと  
馬鹿にするなよ



そんなつもりじゃ…



……  
ごめん







俺まで神経がビリビリ  
しちまう



伊達や織田の刀達は  
まるで人間のようだな

驚きを通り越して  
勘弁してくれって  
思うぜ本当



人間でいう  
こーねんきという  
やつではないか？

いや  
俺たちそういうの  
ないだろ

まっせ  
どっくに逃げてるぞ  
きって



…そういうものか  
俺にはよく  
解らないが



光忠は特に  
不安定だから心配だ

まあ元主の時代に  
いろいろとあったんだろ  
あいつらの場合





審神者の時代まで  
息災なままのお前には  
想像もつかない事さ

おや

意地の悪いことを  
言うな  
今日の鶴は




ん？

そういう  
意味じゃないぜ



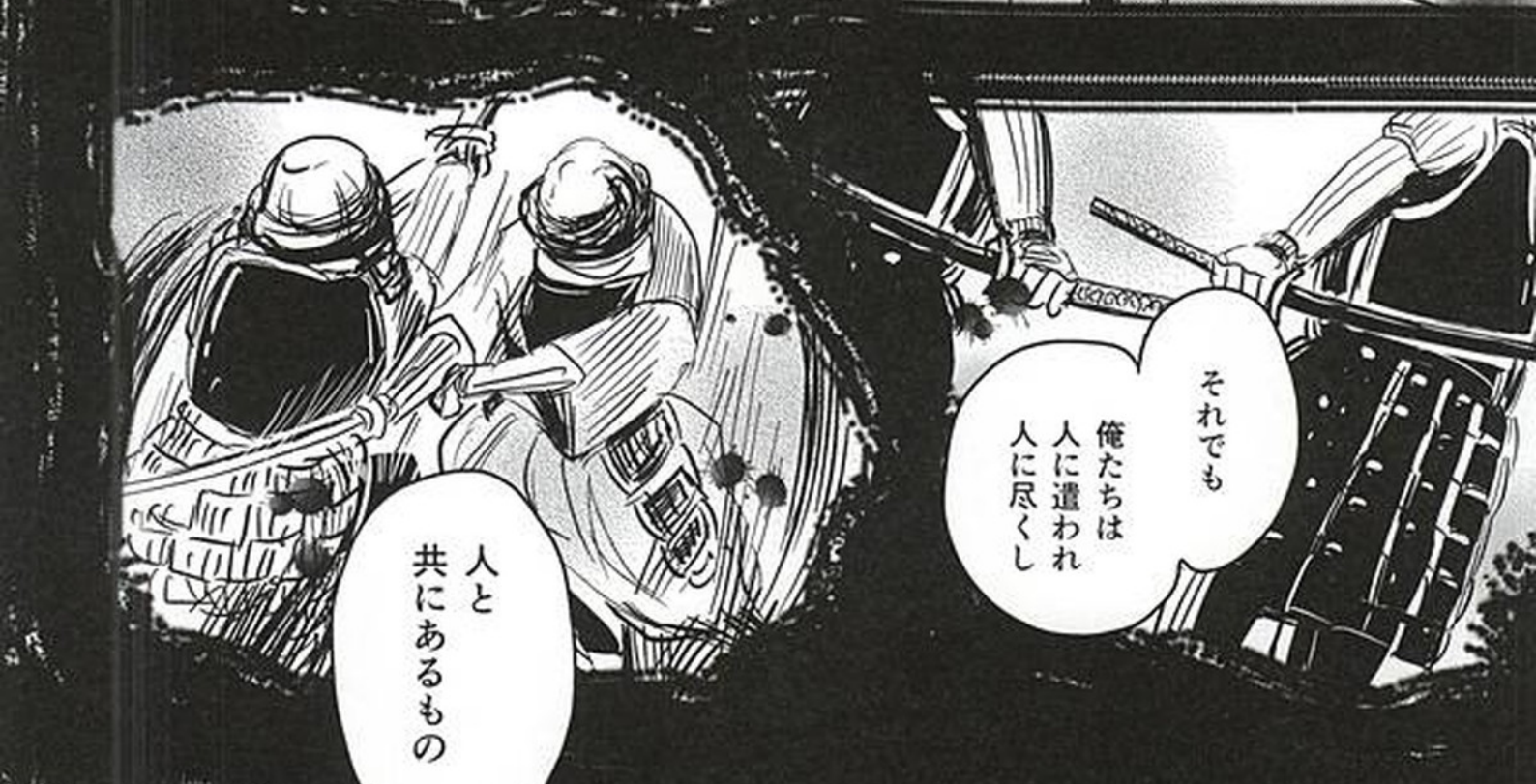
お前が一番  
辛いだろうって  
意味さ





こんな  
気が遠くなるような  
長い月日


人の子ならば  
とおに気が狂っている



それでも

俺たちは  
人に遣われ  
人に尽くし

人と  
共にあるもの



驚きという意味では  
不足はないがなあ

いざその人の形を  
得てみると



いろいろ不都合なことも  
あるもんだよな







あ…  
くりちゃん



内番の時は  
格好悪いところ  
見せちゃったね  
ごめんね



俺は  
お前に何か  
したのか？



ここ  
本丸に来てから

明らかにお前の  
様子は変だ

なぜだ？

やめて

……

言葉では  
何とでも  
言っているが

伊達に居た頃とは  
違う

入ってこないでよ

青葉城を  
去ってから  
何があった？







……もう  
くりちゃんとは  
会えないと思った



だったら  
何で……っ

君には  
わからないよ


だからこうして  
会えて嬉しいよ




君は  
あの方のお側に  
ずっと居たじゃないか

ねえ  
くりちゃん






あの方の最期は  
看取れた？




みった…

水戸に行つて  
後悔したことが  
ひとつだけあるんだ



あの方の最期に  
お側に  
居られなかったこと



自分が焼けようが  
折れようが  
どうでもよかった

この僕に






ただの光忠の一振りに  
号を下さった

あの方の最期に  
寄り添いたかったんだ!!

……っ……



あの人  
が  
愛した  
龍……

僕の醜い  
痕とは違う



ああ

なんて

水戸に行ってから  
ずっと思ってた

考えて  
たんだよ

あの方が  
一番に愛してた刀

くりちゃんの  
ことが

僕は格好悪い

僕は  
妬ましかったんだ

……っ









俺は

お前が羨ましかった



もう黙れ

くりちゃ...















俺は大倶利伽羅だ

光忠

俺を見ろ

……あ

待って

くりちゃ……



気持ちが高ぶると  
出ちゃうの……っ

僕は

何に拘って  
いたんだろう

誰も来ない

そうじゃな……

見ないで  
ぼくの……痕





この龍に――

思っていたものは

凛々しくありたいと

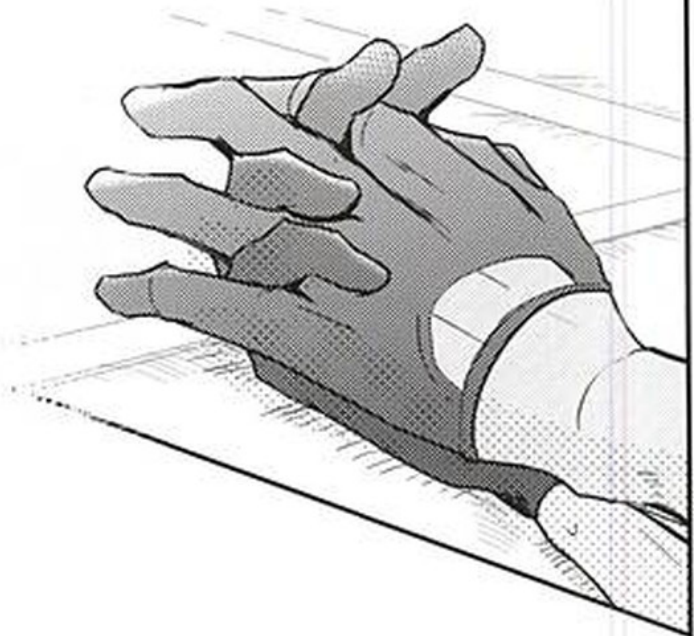
あの人のように  
格好良くありたいと

…綺麗だ









熱が収まれば  
また思ってしまう

あの方が居ない今でも  
あの方の背中を追ってしまう

くだらない  
まるで人間のような心



けれど

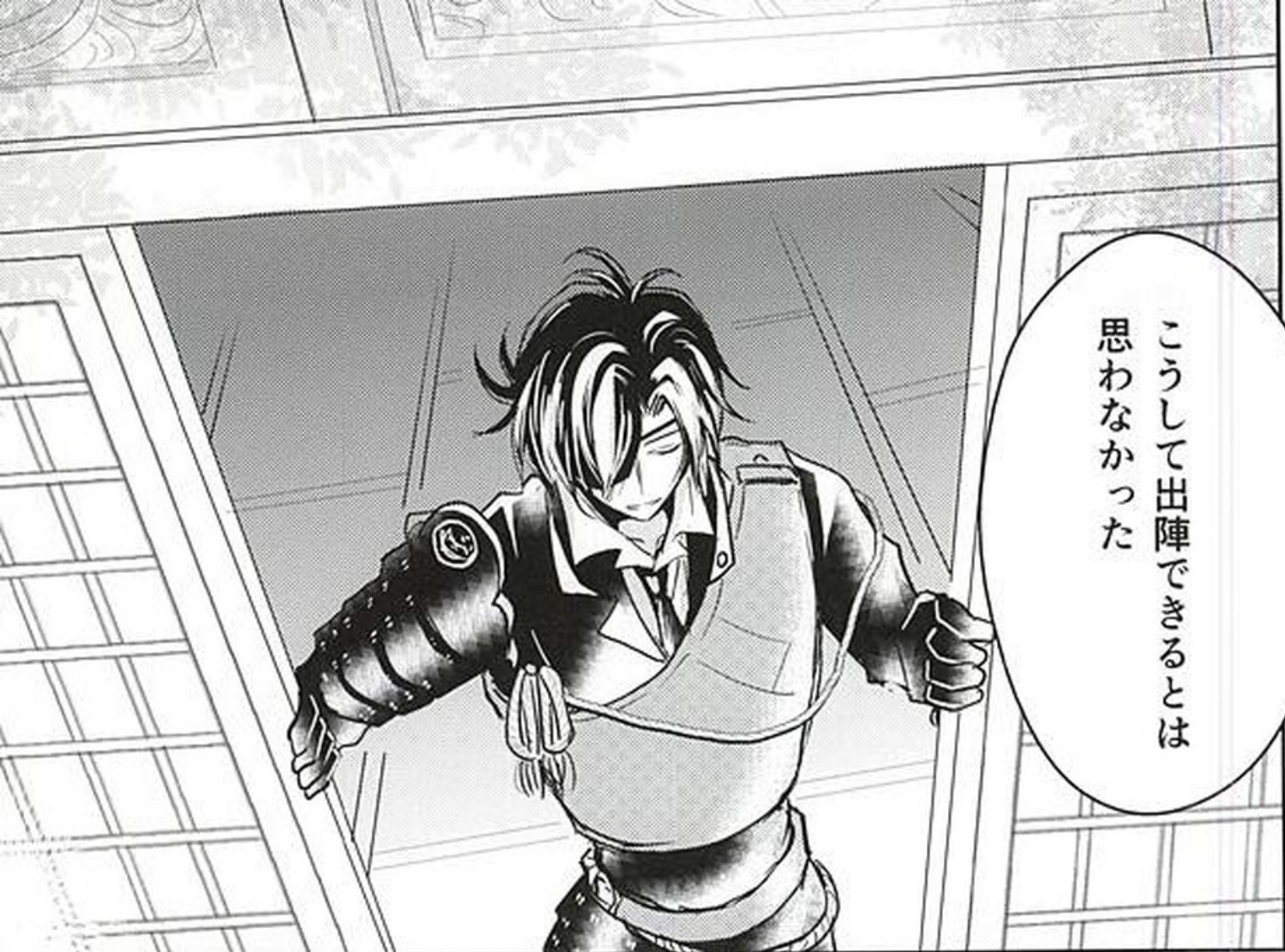


僕には  
それが必要なんだ

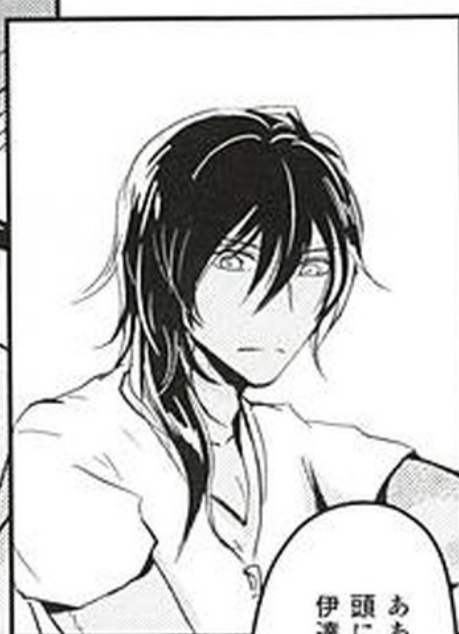








こうして出陣できるとは  
思わなかった



ああ  
頭にくるくらい  
伊達男だ



ねえ僕も  
政宗公と似てる？





…俺たちのことを  
心配してくれて  
感謝している



仲直りしたか？

あんたには  
関係ないだろ



…いっつも  
俺だけ仲間はずれだな







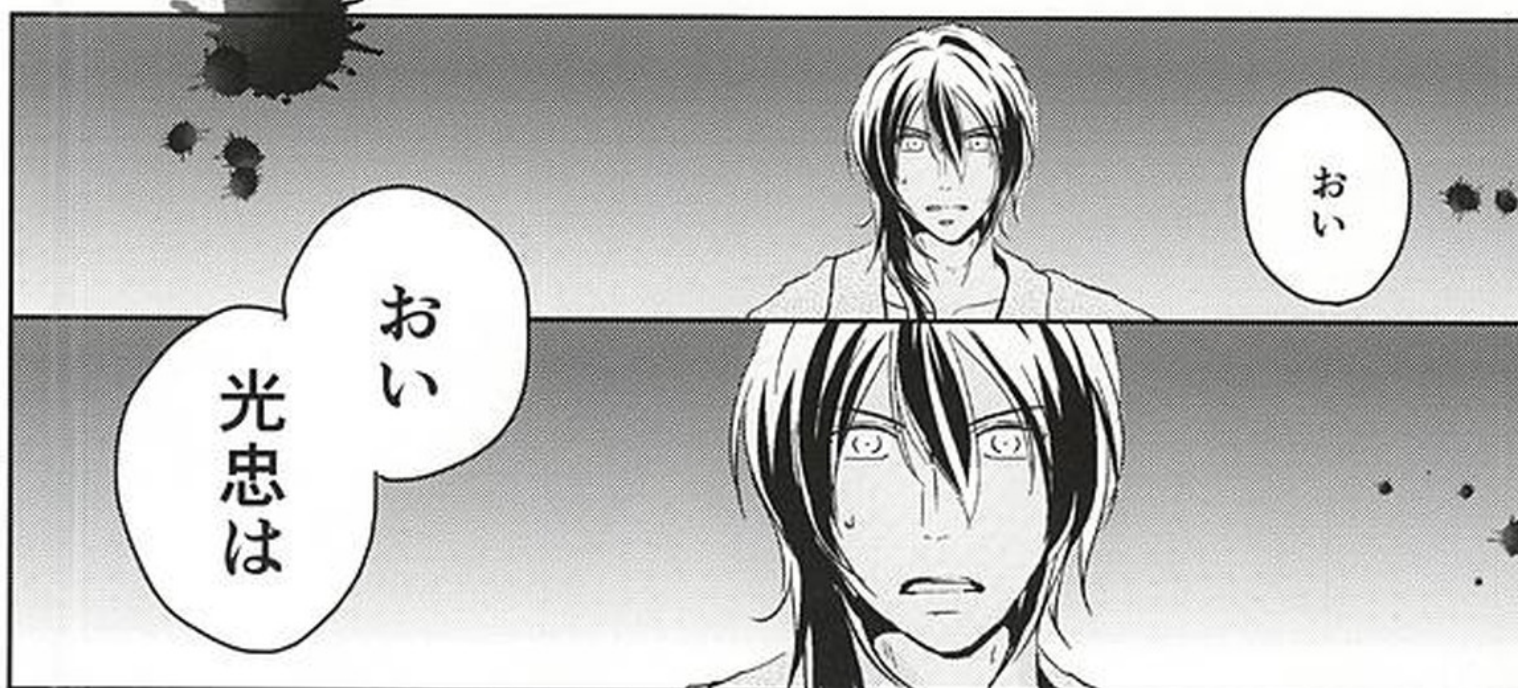


重傷でたのか

検非違使だ！  
検非違使が出たんだ！

槍がいるなんて  
わからなかったんだ

中傷のやつ！  
重傷のやつを  
早く手入れ部屋に



おい

おい

光忠は



俱利伽羅殿……

光忠さんは……

重傷のまま  
大将首を取りに行つて



俱利伽羅殿！

破壊

されました

誰か

いかにしり

かえり



初めまして

僕は燭台切光忠

青銅の燭台だって切れるんだよ

号は政宗公からもらったんだ

大俱利伽羅？  
くりちゃん？

くりちゃんじゃないか！

僕だよ！  
覚えてる？

かっこ良く活躍するには、日頃の備えから

くりちゃんのこと  
大事に思ってるんだ

ご指名かい？  
じゃあ、期待に応えないとね





幸せだよ



ねえ僕も  
政宗公と似てる？

俱利伽羅は？

横にさせています









僕は、燭台切光忠



青銅の燭台だって  
切れるんだよ



……うーん

やっぱり  
格好つかないな









倶利伽羅！

倶利伽羅だよな？

青葉城ぶりだ！



嘘だろ



おい…



伊達の頃を思い出すな  
俱利伽羅と一緒に  
出陣できるなんて

思い出せる事

俱利伽羅の顔見たら  
ほっとしたよ

ちがう…  
こいつはこの間まで  
本丸にいたあいつじゃない  
二振り目の…

思い出せない事

一振り目が破壊…

二振り目がきた  
ということか…

それが

なんてことだ



これから  
よろしくね



選べたら

いいのに



tohken-ranbu unofficial FAN-Book

Okurikara x ShokudaikiriMitsutada

VIP-Typhoon ELZA